

氏名（本籍）	伊藤 慎
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	博甲第 7436 号
学位授与年月	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	初期研修医のストレス対処能力と抑うつに関する研究

主査	筑波大学教授	医学博士	大河内 信弘
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	鈴木 英雄
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	小島 真奈
副査	筑波大学助教	博士（医学）	宇佐見 和哉

## 論文の内容の要旨

### （目的）

抑うつは自殺という最悪の転帰をたどることもあり、研修医の抑うつ予防は喫緊の課題である。労働時間の制限などの一次予防のみでは抑うつ予防は困難であり、二次予防である抑うつ早期発見が重要である。抑うつハイリスク群を同定する事が出来れば、早期発見の一助となる。今回、ストレス対処能力を示す指標の一つである首尾一貫感覚(sense of coherence : SOC)に着目し、SOCスコアが研修医の将来の抑うつ予測因子となりうる可能性について検討することを研究の目的とした。

### （対象と方法）

(1)対象：臨床研修病院 251 施設で研修を開始した 1 年目初期研修医 2935 人を対象とし、自記式のアンケート調査を計 3 回行った。(2)質問紙の構成・調査時期：質問紙票は 1)抑うつ症状の評価：CES-D(the Center for Epidemiologic Studies Depression) スコア、2)ストレス対処能力の評価：SOC スコア、3)基本属性、4)労働状況より構成し、各調査における主な質問項目は以下の通りとした。①ベースライン調査（オリエンテーション時）：CES-D スコア、SOC スコア、基本属性、②3 か月後調査：CES-D スコア、労働状況、③研修修了時調査：CES-D スコア、SOC スコア、労働状況。CES-D スコア 16 点以上を抑うつ症状陽性とし、ベースライン調査で抑うつ症状陰性であり、フォローアップ調査で抑うつ症状陽性であったものを、「新規抑うつ症状」と定義した。(3)統計解析：1) 3 回のアンケート調査について記述統計量を算出し、各調査間で抑うつ症状の有無等について比較・検討した。：2) 新規抑うつ症状と関連する要因の検討（縦断調査）。ベースライン調査と少なくともどちらかのフォローアップ調査に回答した人を対象とし、ベースライン調査ですでに抑うつ症状陽性であった人は除外した。全体の SOC スコ

アの平均及び標準偏差 (SD) を用いて、解析対象者を低値群、中庸群、高値群の 3 群に分割した。新規抑うつ症状と関連する要因について検討するために単変量解析および従属変数を新規抑うつ症状、独立変数を SOC3 群、単変量解析において  $P < 0.1$  であった変数および基本属性とした二項ロジスティック回帰分析 (強制投入法) を行った。

### (結果)

(1)各調査間の比較：ベースライン調査では 2935 人に調査票を配布し、1695 人 (57.8%) より有効回答を得た。3 か月後調査で 1209 人(69.6%)、修了時調査で 1126 人(64.8%)より有効回答を得た。抑うつの頻度はベースライン調査で 270 人(15.9%)、3 か月後調査 366 人(30.3%)、修了時調査 247 人(24.3%) だった。平均労働時間に関しては 3 か月後調査より修了時調査の方が短かった(78.9±13.8 時間：72.5 ±15.1 時間)。(2)新規抑うつ症状と関連する要因：1)縦断調査 (3 か月後)：ベースライン調査と 3 か月後調査両方に有効回答のあった 1209 人のうちベースライン調査ですでに抑うつ症状を呈していた 189 名を除外し、1020 人(82.0%) を解析対象者とした。このうち、238 人(23.3%) が新規抑うつ症状を呈していた。SOC3 群における新規抑うつ症状を呈した研修医の割合はそれぞれ、低値群で 41.2%、中庸群で 22.3%、高値群で 11.3%であった ( $p < 0.01$ )。二項ロジスティック解析において、新規抑うつ症状に対する SOC 高値群を基準とした SOC 低値群のオッズ比は 3.11(95%CI: 1.48-6.53  $p < 0.01$ ) であった。2)縦断調査 (研修修了時)：縦断調査 (3 か月後) と同様に、957 人(81.9%) を解析対象者とした。このうち、187 人(19.5%) が新規抑うつ症状を呈していた。二項ロジスティック回帰分析において、抑うつ症状に対する SOC 高値群を基準とした SOC 低値群のオッズ比は 2.04 であった。

### (考察)

ベースライン調査での SOC スコアは独立して新規抑うつ症状と関連しており、3 か月後のオッズ比は 3.11 と、SOC 低値群は高値群と比較して約 3 倍新規抑うつ症状を呈しやすいことが示された。研修開始前に SOC スコアを評価する事で抑うつのハイリスク群を同定することが出来、抑うつの早期発見の一助となる可能性が示唆された。3 か月後調査で 30.3%もの研修医が新規抑うつ症状を呈していた。また週 80 時間以上労働している研修医も相当数いることが明らかになり、今後研修医の勤務・研修環境のさらなる改善が必要であると考えられた。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

本論文は、初期研修医の研修前の首尾一貫感覚 SOC スコアの値が研修開始後の抑鬱の発生と深く関係しているかどうかについて全国の 251 施設の初期研修医を対象にアンケート調査を行い、両者の関連性を解析した研究である。その結果 SOC スコアが低値の群では、研究終了時で 2 倍新規の抑鬱状態を呈していた。この結果から SOC スコアが低値の研修医は抑鬱発症のハイリスク群であり適切なサポートが必要であると結論づけている。これらの内容はすでに雑誌 Medical Education に掲載されることが決定されており、今後の我が国の初期研修医のメンタルヘルスケアのあり方に大きく寄与する貴重な研究と言える。

平成 26 年 12 月 17 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定し

た。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。